

修復された下絵や、関連する本画が並ぶ展示会場＝岐阜市大宮町、
加藤栄三・東一記念美術館



加藤栄三・東一美術館開館30周年記念展

素描や下絵、輝き再び

ぎふしん財団が修復支援

加藤栄三・東一記念美術館の開館30周年を記念した「名品展」が、岐阜市大宮町の同館第1展示室で開かれている。ぎふしん記念財団の支援で修復した素描(スケッチ)や下絵などが展示されている。7月25日まで。

めとして毎年100万円を寄付している。

会場では、栄三の「月響」

の素描など、主に19、20年度の事業で修復された13作品を紹介。それらの下絵や素描に関連する本画も並んでいる。そのほか、東一の「留白」など、両氏の代表作も展示している。

初日の20日には、同財団の高橋征利理事長が来館し

「新型コロナウイルスの閉塞感の中、多くの市民が芸術文化による心の潤いを感じ

じられる機会になれば」と話した。また、第2展示室では、同財団と岐阜信用金庫が支援する岐阜市芸術文化奨励賞の創設25周年記念展も6月13日まで開催されている。(田代理加)